

理科実験・観察訪問研修

夏季休業中に、町内の6小学校で理科実験・観察訪問研修を実施しました。教員の理科の指導力向上を図ることを目的に、県総合教育センターと協業で毎年実施し、今年度で9年目となりました。各校で、「てこのはたらき」「物の温まり方」「水溶液の性質調べ」「水溶液と金属の反応」「電気の利用」「葉脈標本作り」の研修項目の実践を丁寧にご指導いただき、楽しく実験を行うことができました。

参加者からは、「実験を成功させるポイントや実験グッズを紹介してもらえて、大変参考になった」「本研修を通して様々な技能を高めることができ、授業で活用していきたい」などの意見が多数聞かれ、授業にすぐに役立つ大変有意義な研修となりました。



～小・中学校、高等学校生徒指導協議会～



11月16日(金)に飯野小学校において、小・中学校、高等学校生徒指導協議会を開催しました。校舎及び活動見学後、5時間目の学校保健委員会の授業を参観しました。その後、飯野小学校と上青小学校の生徒指導主事の先生による事例発表や各校の現況報告などを行い、小・中学校、高等学校で実践している様々な取組について情報交換をすることができました。そして、入善町の子供たちの健全育成を目指して、今後も連携を深めていくことを共通理解しました。

第77回 富山県科学展覧会

- ・研究努力賞 飯野小学校 3年 笹島 浩裕 「沢スギの生き物のひみつを見つけよう パート3
ーニホンアマガエルはなぜ沢スギにたまごをうまないのかー」
- ・研究努力賞 飯野小学校 6年 塚田 美里 「ものを浮かせる力(浮力)について」
- ・研究努力賞 入善西中学校 3年 大川原 和志 「カプトムシの観察 Part9」

第56回 富山県発明とくふう展

- ・日本発明協会会長奨励賞 上青小学校 3年 稲村 千成 「フェルトでおかたづけ」
- ・優秀賞 黒東小学校 2年 島端 紗羅 「カップンガー」
- ・優秀賞 飯野小学校 6年 井田 萌音 「きれいに魚をとります！」
- ・優秀賞 飯野小学校 6年 板倉 健 「災害時安全寝袋」
- ・奨励賞 黒東小学校 1年 小路 菜々海 「ペットボトルティッシュ箱」
- ・奨励賞 桃李小学校 1年 青木 瑛音 「キャップでカレンダー」
- ・奨励賞 入善小学校 4年 舟川 叶真 「ブルーベリー簡単採集機」
- ・奨励賞 入善小学校 6年 松原 壮志 「ポンポンシュシュ」



第27回 富山県未来の科学の夢絵画展

- ・富山新聞社長賞 上青小学校 3年 松田 アミ 「いやな気もちをふきとばすうちわ」
- ・銀賞 上青小学校 5年 梅川 珠美礼 「未来の便利なロボット」
- ・銅賞 桃李小学校 2年 野寺 海斗 「地下の町」

☆ 新規購入図書紹介 ☆

- ◆ 「小学校 新学習指導要領 社会の授業づくり」
著者：澤井 陽介
- ◆ 「特別の教科 道徳」で大切なこと
著者：赤堀 博行
- ◆ 「考え、議論する道徳科の授業の新展開—高学年—」
編著者：赤堀 博行



編集後記

朝晩の気温差が大きく、体調管理が一段と厳しい季節となり、冬の足音が近付いているのを感じます。

最近、新聞やテレビでは、「平成最後の〇〇」という言葉がよく聞かれ、各地では様々な行事が行われています。皆さんはどんな「平成最後の〇〇」のイベントを企画しておられるでしょうか。残りわずかとなった「平成」という一つの大きな舞台が、先生方、そして子供たちにとって、次の時代への希望に繋がる充実した日々になることを願い、微力ながらセンターとしてお手伝いをしていきたいと思っております。

発行：入善町教育センター
〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5
うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール: nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ: <http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp>

「子供たちの明るい未来のために」



入善町中学校長会

会長 高澤 優

近年、AI（人工知能）やロボットに関するニュースを頻繁に目にしたり、耳にしたりします。これらの技術の進歩によって、私たちの生活がより便利になると期待される反面、AIによって今ある仕事が奪われることも指摘されています。2013年に、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授らが発表した論文の中に「機械が奪う職業・仕事ランキング」がありました。このランキングは、アメリカを想定して作られているので、同じ手法で日本の職業について分析した結果を、2015年に野村総合研究所が発表しています。それによると、2030年には、日本の労働力人口の約49%がAIやロボットで代替可能としています。そして、専門性の低い職業やデータ分析等の仕事は、AIによって代替されてしまい、芸術のような抽象的概念を扱うものや、コミュニケーションが必要な仕事はなくなるとされています。ちなみに、小中学校の教員は、将来もなくなる職業だそうです。

このような社会の急激な変化を、私のような世代の人間は不安に感じてしまうのですが、若い世代は、きっとしなやかに対応していくと思っています。よく考えてみると、私が教員に採用された頃は、学校にパソコンは1台もなく、現在のように職員室の机の上に1台ずつ配置され、全員が利用できるようになるとは予想もできませんでした。私たち教職員は、社会の急激な変化を不安なものとして捉えるのではなく、新たな可能性を拓くものと積極的に捉え、子供たちに接していかなければならないと強く感じています。

さて、新学習指導要領の全面実施が間近に迫っています。新学習指導要領は、2016年の中央教育審議会の答申に基づいて改定されたものであり、その改定の方向性の中に「2030年の社会と子供たちの未来」と題する章があります。そこには、「予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となる」という言葉が記され、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていくことが期待される。」と書いてあります。さらに、学校教育については、「これまでの学校教育で育まれてきたものとは異なる全く新しい力ということではなく、学校教育が長年その育成を目指してきた『生きる力』を改めて捉え直し、しっかりと発揮できるようにしていくことである。時代の変化という『流行』の中で未来を切り拓いていくための力の基盤は、学校教育における『不易』たるものの中で育まれる。」としています。

2030年頃には、大人になっている現在の児童生徒が、予測できない変化に主体的に向き合って未来を切り拓き、よりよい社会と幸福な人生の創り手に育ってほしいと願います。そして、子供たちの明るい未来のために、私たち教職員は、この新学習指導要領が目指す基本的な考え方をしっかりと捉え、社会とも相互に連携しながら協働し、日々の教育活動の充実に努めていかなければならないと考えています。